



創立 50 周年記念誌の編集状況報告

長崎県技術士会・顧問 川村昭宣（建設・総監）

昭和 50 年（1975 年）に創立された長崎県技術士会は、今年 2025 年創立 50 周年を迎えます。が、創立 50 周年記念事業として記念誌を作成する事を、令和 6 年 10 月 10 日発行の APREN 第 87 号にて、山口和登会長が予告しています。

創立 50 周年記念誌の作成は、編集委員会を設置して鋭意検討中で、長崎県技術士会の 50 年の歴史をまとめて、今後の長崎県技術士会の発展に役立てたいと考えており、その進捗状況を報告します。

1. 編集委員会について

役員から編集委員を募り、山口和登会長、園田直志理事、山本奉彦理事、横山知充理事、川村昭宣顧問（編集長）の 5 人で編集委員会を作り、第 1 回を 4 月 23 日、第 2 回 5 月 19 日、第 3 回 6 月 30 日、第 4 回 7 月 23 日、第 5 回 8 月 21 日と、毎月 1 回に開催して精力的に検討を進め、記念誌の目次などの骨子を固めてきました。第 6 回（10 月 2 日）からは浦瀬俊郎理事にも参加いただきました。

2. 記念誌の内容

下記の様な内容とする方針で準備を進めています。

1) 祝辞：

長崎県知事（又は副知事）、長崎大学の学長（または執行役員の領域長）、

長崎県技術士会

令和 7 年 10 月 10 日発行・責任者 山口 和登

及び長崎県技術士会が後援している 2 つの研究会の長崎地盤研究会会長の蒋 宇静教授、産業基盤維持管理技術研究会会長の中村聖三教授の 4 人の方にお願いする予定です。

2) 長崎県技術士会創立の経緯と背景：

長崎県技術士会が発足出来たのは、元日本技術士会副会長で初代長崎県技術士会会长の黒瀬正行氏、元九州支部支部長で長崎県技術士会元顧問の野々下金氏、元九州支部幹事で長崎県技術士会初代副会長の藤永勝之氏、長崎県技術士会第 2 代会長の田中武熊氏が熱心に、奔走してくださったおかげであります。

長崎県技術士会の発足時の経緯や創立年度等は、創立時の資料がほとんど残っておらず詳細不明の上、創立時の会員の方も故人となられたり連絡先が不明になっていたりして、調査は難航致しました。しかし第 2 代副会長の柏原公二郎氏や、元長崎地区代表幹事の城石高弥氏、第 3 代副会長の永濱伸也氏等多くの先輩方の情報提供により、ほぼ経緯などをまとめる事が出来ました。

創立前後の状況や、創立年月日の特定、初代会長、初期の会員の状況などを説明します。

3) 長崎県技術士会と日本技術士会本部（現統括本部）・九州支部（現九州本部）・長崎県支部との関係：

長崎県技術士会は任意団体ですが、公益社団法人日本技術士会と連携を取りつつ活動してきました。

日本技術士会は昭和 26 年（1951 年）創立ですが、昭和 40 年（1965 年）には九州支部が創立さ

れ、平成26年（2014年）長崎県支部創立までは、長崎県技術士会が実質的な長崎県支部の様な形で活動しており、長崎県技術士会の初代会長の黒瀬正行氏は日本技術士会の副会長、創立以来顧問の野々下金氏は九州支部長を務めています。

また九州支部幹事や九州技術士センター理事、及び長崎地区代表幹事（現在の長崎県支部長に相当）、長崎地区幹事（現在の長崎県支部幹事に相当）を選任して活動しており、この間の状況を説明致します。

4) 歴代役員：

歴代会長は初代黒瀬正行氏・第2代田中武熊氏・第3代福岡辰義氏・第4代犬東洋志氏・第5代山口和登氏ですが、その他50年間の歴代の顧問、副会長、理事、監事等をご説明します。

5) 会員推移と創立初期20年の活動状況：

初代会長黒瀬正行氏・第2代会長田中武熊氏、第3代会長福岡辰義氏の時代についての活動状況を説明します。

6) 創立後20年から50年までの活動状況：

第4代会長犬東洋志氏、第5代会長山口和登氏の時代に、長崎県技術士会は大きく発展し、各種の活動をしてきました。この状況を説明します。

7) 長崎県技術士会会員の寄稿

過去の役員経験者、現在の役員、創立初期の会員、現在の会員有志等に原稿の寄稿依頼をしており、寄稿文を紹介します。

8) 長崎県技術士会の機関紙APRENの記事一覧表

第1号（平成10年4月1日発行）から第90号（令和7年7月10日発行）までの機関紙APRENの記事一覧表を提示します。

なお第1号から第12号までの機関紙は「IP EJ—NAGASAKI—」という名称であり、

第13号（平成18年4月1日発行）から現在の「APRENだより」という名称に変更となっていきます。

9) 協賛広告応募会社

協賛広告に応募いただいた団体・企業・個人の方々について、掲載致します。

3. 記念誌の配布先

長崎県技術士会会員の他、国交省関連機関、長崎県の関係部局、長崎市・佐世保市、大学・高専・工業高校、関係団体・協会、日本技術士会九州本部・各県支部、協賛広告応募会社・団体等、多くの関係先に配布し、長崎県技術士会の今後の発展への協力依頼をしていきます。

4. 協賛広告募集について

創立50周年記念誌印刷費用に充当するため、平成13年（2001年）発行の日本技術士会創立50周年記念誌や、平成13年（2001年）発行の長崎県技術士会名簿に掲載の協賛広告を参考にしながら、協賛広告を募集しております。

よろしくお願ひいたします。

5. 完成目標（今後の予定）

祝辞の依頼や会員有志の方への原稿寄稿10月末を原稿締め切りとして、依頼を開始し、協賛広告についても11月末を締め切りとして募集開始しております。

皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

今後12月末には記念誌草稿のとりまとめ完了し、印刷会社などの最終見積もり入手の上、来年2月には印刷開始し、3月には配布開始したいと考えています。（以上）

令和7年度第2回CPD研修会報告

吉村技術士&行政書士環境事務所 吉村賢一郎
— (環境・総合技術監理部門)

令和7年9月3日(水)に長崎県支部第2回CPD研修会(3講演)が、諫早市の諫早商工会館において42名の出席のもとに開催されました。その概要を報告致します。

演題1 「膜を用いた排水処理(MBR)と東洋紡エムシー膜の特徴」

【講師】森田純輔 氏(東洋紡エムシー株式会社
膜営業ユニット)

我が国のトップ繊維メーカー東洋紡で工場排水処理に用いる分離膜の開発を担当されている森田氏から、膜分離活性汚泥法に同社が開発したMBR膜を活用した事例についてご講演いただいた。

【講演内容】

近年、活性汚泥法と膜処理を組み合わせた『膜分離活性汚泥法』が普及している。東洋紡では、MF(精密ろ過膜)に属するMBR膜を開発して上市している。MBR分離膜は複雑な構造の中空糸膜ではなく、膜の洗浄メンテナンス効率化の視点から平膜とし、『FILPLATE』と称するMBR膜を開発した。『FILPLATE』膜は、均質膜構造、流量均一化による圧力損失低減化、膜の親水性長期間保持等の優れた特性を有し、食品製造業等の排水処理に導入され成果を上げている。MBR膜を活用した膜分離活性汚泥法は、「処理システムのコンパクト化」「処理水の清澄度向上」「膜洗浄簡易メンテナンス化」等優れた長所を有するが、

今後は業態が異なる種々の工場排水への処理効果の検証及び運転コストの削減が課題である。



写真-1：森田純輔講師



写真-2：森田純輔講師

【所感】

膜分離活性汚泥法は、排水処理システム全体のコンパクト化や処理水質の優れた清澄度など大きなメリットがある反面、最大のリスクは膜の目詰り・閉塞である。膜洗浄は、現在人手に頼らざるを得ないが、可能であれば機械洗浄による自動化の開発・導入を検討願いたい。

演題2 日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」

【講師】矢島貴子 氏(長崎県文化観光国際部 文化振興・世界遺産課 学芸員)

2015年に日本遺産として文化庁から認定された「国境の島(壹岐・対馬・五島)」の歴史文化的魅力と長崎県の今後の取組み・展開についてご講演いただいた。

【講演内容】

日本遺産は文化庁所管で2015年（平成27年）に創設され、国内の歴史的魅力、文化伝統を包括的なストーリーとして認定される。日本遺産は、全国104か所認定されそのうち長崎県は4か所に関わっているが、長崎県独自（単独認定）のものは「国境の島」であり、日本遺産創設と同時に2015年に認定された。国境の島は、壱岐・対馬・五島の三つの離島が、古代に大陸（朝鮮半島地域や中国）との二千三百年にも及ぶ交流・交易の歴史から、「壱岐島の原の辻遺跡」「壱岐の島有力者の古墳群」「対馬の白村江の戦いと金田城」「遣唐使船最後の寄港地・五島」「新上五島町若松日島の石塔群」などの貴重なコンテンツで構成されている。今年が「国境の島」日本遺産認定後10年を迎えることから、長崎県では離島の歴史文化にまつわる講演会・展示会開催、周遊クイズラリーや旅行商品造成などの事業を計画している。



写真-3：矢島貴子講師

【所感】

長崎県は全国一の離島数を有し、有人離島面積比率は県土の38%にも及ぶ。その中でも特に壱岐・対馬及び五島に人口が集中している。私は環境部門技術士なので離島といえば漂流・漂着ゴミ問題を連想しますが、本講演で、このような古代歴史文化に育まれた貴重な地域資源を有している

ことを改めて認識することができた。

演題3 社会課題解決に挑むトライボロジー

【講師】牧野 武朗 氏（三菱重工（株）総合研究所 フェローアドバイザー、機械部門技術士）

持続可能な社会実現のためのトライボロジー技術の活用例及び2050年カーボンニュートラルに向けて、三菱重工グループ全体としての取組みについてご講演いただいた。

【講演内容】

トライボロジーとは、車両エンジンや機械ギヤー等、主に摩擦、摩耗、潤滑に関する技術分野である。摩擦や摩耗が多いと多量のエネルギーを消費するため、低摩擦、低摩耗や表面損傷の低減を実現するトライボロジー技術により、省エネ、省資源に貢献でき、かつエネルギー節約により経費削減などの経済効果も期待できる。トライボロジー技術による2050年カーボンニュートラルへの取組みとして、水素ステーションにおける液体水素昇圧ポンプ、水素タービン、水素エンジン、CO₂回収・利用・貯留（CCUS）システム等に使用される各種機械設備の低摩擦・低摩耗化により省エネを推進する。その他、サプライチェーンを含む三菱重工グループ全体で、スコープ1, 2, 3の徹底した省エネ・省資源の推進、水素の地産地消によるクリーンエネルギーの創出、製鉄所高炉でコークスの代用として水素活用、ごみ処理施設でのCO₂循環システムの導入等、カーボンニュートラルへ向けて取り組んでいる。



写真-4：牧野武朗講師

【所感】

本講演を通して、サプライチェーンを含む三菱重工グループ全体として、トライボロジーや低炭素技術等を駆使しながら、2050年カーボンニュートラルへ向けて、種々のイノベーションに真摯に

取り組んでいる企業経営理念は誠に素晴らしいと感じた。



写真-4：講演聴講風景

(以上)

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

(1) 会員の訃報—謹んでご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

吉田 強 (建設)・名誉会員	詳細不明
山口洋一 (建設)・A会員	2025.8.4 (65歳)
塚島正文 (農業)・A会員	2025.9.4 (82歳)
法村哲朗 (建設)・A会員	2025.9.12 (58歳)

(2) 新入会員の紹介 (7～9月役員会承認)

(区分)	(氏名)	(部門)	(所属)
A会員	井上秀治	建設・総監	扇精光コンサルタント株式会社
A会員	森高一久	農業	E-tecs コンサルタント株式会社
A会員	牧野武朗	機械	三菱重工業株式会社
A会員	門馬弘昌	機械	三菱重工業株式会社

(3) 益社団法人日本技術士会の2025年度会長表彰を山口昭光氏が長年にわたり長崎県支部の幹事及び支部長を務め、長崎県支部、九州本部並びに日本技術士会の発展に貢献した理由により受賞されました。おめでとうございます。

(4) 日本技術士会長崎県支部の2025年度第3回CPD研修会は11月5日(水)に諫早商工会館で開催予定です。詳細は案内状をご確認ください。

編集代表&連絡先
N.ソノダ技術士事務所 代表 園田直志
sonoda_naoshi@icloud.com